

～教職支援室利用者の声～



「教職支援室は教採合格の近道！！」

**令和7年度（令和6年度実施） 埼玉県公立学校教員採用候補者選考試験
中学校 社会 合格（文学部史学地理学科地理・環境コースR7年3月卒）**

私は3年生の11月から教職支援室に通い始めました。支援室では主に、小論文と面接、そして集団討論の対策をしていただきました。私は支援室の先生方にお世話になったおかげで、合格を勝ち取れたと心から思っています。まず一つは、支援室の先生方の圧倒的な指導力です。短い文章の中で、言いたいことをまとめることが苦手な私にとって、小論文は非常に難しいものでしたが、そもそも何を書けばいいのかというところから、細かく分かりやすく教えていただき、本番の試験では満点を取ることができました。二つ目は、支援室の仲間存在です。教採合格という同じ目標に向かって頑張っている仲間は、勉強が思ったようにできないときや、自分に甘えそうになる時にとっても大きな存在です。支援室では、意見交換や情報交換をしながら、教採に向けて一緒に突っ走ることができる仲間に出会うことができます。

ぜひ、勇気をだして教職支援室のとびらを開けてみてください。

「成るべくして成るための一歩」

**令和7年度（令和6年度実施）東京都公立学校教員採用選考試験
小学校全科 合格（体育学部体育学科R7年3月卒）**

教員採用試験が前倒しで受験できることを知り、対策に明け暮れていました。どうすれば受かるのか。良策がないまま、時間だけが過ぎていきました。だからこそ、当時の私にこう伝えたいです。「教職支援室をいち早く、沢山活用しろ」と。私がこの場所の存在を知ったのは、教育実習の始まる直前でした。たまたまの再会。目の前には母校の元校長先生がおりました。何かの縁だと思い、感謝をしつつ私の目標実現にお力添え頂きました。しかしながら、支援室を活用する時期が大分遅かったです。「もっと早ければ」。何度そのように考えました。苦手な小論文や二次対策を急ピッチで行いました。そこで改めて気付いたことが二つあります。

1つは、「質を語る前に量をこなせ。」これは、勉強や論文、面接対策にも同様のことが言えますが、それ以上に一人でこなせることには限度があるということです。個で戦わず、「個×個の集団」＝「量で戦い抜く」ことが重要です。

もう1つは、「目的を見誤らない。」大学生活で授業はやや邪魔かもしれませんが。自由が多くあるからこそその不自由であるということもあります。他のキャンパスの講義なんて、もってのほかかもしれません。ただ、自分の中に明確に「なりたい像」があるのだとしたら、そこから逆算してほしいです。教職に就かないから講義を聞かないのか。つかなくても知見を広げたいから聞くのかではないでしょうか。雲泥の差です。

私が伝えたいのは、まじめに授業を聞いてほしいわけでも仲間を増やしてほしいわけでもないです。自分の思い描く未来に直結する情報や登場人物を自ら選ばなければ、成るべくして成ることは、限りなく0に近づいてしまうということです。

自分のことを分析し、未来に向けて躍動することを願っています。

「心強い味方に出会える空間」

令和7年度（令和7年度実施） 川崎市立学校教員採用候補者選考
小学校全科 合格（文学部教育学科初等教育コースR7年3月卒）

私は3年の2月から週2回程、教職支援室に通いました。なかなか一人で行く勇気がなく、仲の良い友達と恐る恐る扉をノックした記憶があります。主な指導内容としては、小論文対策と面接対策の2つになります。私の場合、小論文対策を始めたのも同時期であったため、とにかく多くの題材に触れること、一つでも多くの題材で完成論文を作ること为目标として指導していただきました。実際に支援室に通っているときだけでなく、メールでの添削なども対応してくださるため、効率よく学習することができました。また、面接練習では、「端的に・ハキハキと話す」ことを意識して臨みました。様々な想定質問に対して答えを用意するというより、自分の考えや思いといった信念・軸からブレないことが重要であり、回答に自信をもって話すことができるようになったことで、合格に大きく近づいたと振り返ります。さらに、受験自治体の傾向や特性に合わせて指導していただけるため、模擬授業や場面指導、集団討論といった形式の対策も取り組むことができます。

私が試験に合格できたのは支援室の先生のおかげです。「教師になる」という夢が叶い、本当に感謝しております。4年生になると教育実習や卒業論文の作成などもあり、採用試験の勉強との両立が大変になるため、1日でも早く支援室に足を運ぶことをおすすめします。（着手が遅く、実際に苦しい思いをしたので...）